

## 環境 環境中長期目標と実績

井関グループは、グループ全体で環境マネジメントシステム (EMS) を導入して環境経営に取り組んでいます。環境負荷低減について、2020年と2030年までの環境中長期目標を設定しています。2019年度の活動の実績と近年の推移は次の通りです。

### 環境中期目標と活動実績

#### ○ 環境中長期目標

- 国内製造所の生産活動におけるCO<sub>2</sub>排出量削減  
2030年 **26%削減** (2013年度比)
- 国内売上高におけるエコ商品比率  
2020年 **37%** 2030年 **50%以上**

#### ○ 環境マネジメント推進における2019年度の主な活動実績

2019年度の主な活動目標	2019年度の主な活動実績
水質・大気の大気汚染防止法規制基準値より厳しい自主基準値での管理	国内4製造拠点で自主管理基準値クリア
従業員の環境意識の向上	環境教育の実施：2回、環境美化・清掃活動への参加
調達部品に含まれる有害化学物質の使用禁止・削減・抑制	取引先のEMS認証取得推進や情報提供を通じたグリーン調達率の向上
製品アセスメントシステム・ライフサイクルアセスメント (LCA) 評価運用による環境負荷低減商品の開発	環境適合設計の推進によるエコ商品認定機種6機種追加
CSR調達の推進とグループ内水平展開	井関のCSRについての考え方を取引先へ説明 取引先へのCSR調達ガイドラインの配布、CSRアンケートの実施
生産活動における環境負荷低減の推進	下記参照

#### ○ 生産活動における環境負荷低減の推進

	環境中期目標 2013年度基準		管理項目 (単位)	2019年度		
	目標値	実績値		目標値	実績値	評価
低炭素社会の実現	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2020年までに11%減 年間1.57%減	売上高比 (t-CO <sub>2</sub> /億円)	45	52	△
	商品物流CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2020年までに10.5%減 年間1.5%減	総排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	26,800	26,100	○
製造資源	総物資投入量の削減	2020年までに10.5%減 年間1.5%減	輸送量当たり (t-CO <sub>2</sub> /万トンキロ)	1.24	1.34	△
			売上高比 (t/億円)	88	81	○
循環型社会形成	水使用量の削減	2020年までに51%減 年間7.3%減	総投入量 (ton)	52,600	40,600	○
			売上高比 (t/億円)	281	332	△
	廃棄物最終処分量の削減	2020年までに14%減 年間2%減	総使用量 (万ton)	17	17	○
			売上高比 (t/億円)	0.60	0.29	○
			総処分量 (ton)	362	143	○
有害化学物質	PRTR法対象の化学物質使用量の削減	2020年までに19.6%減 年間2.8%減	売上高比 (t/億円)	0.23	0.20	○
			総使用量 (ton)	138	100	○

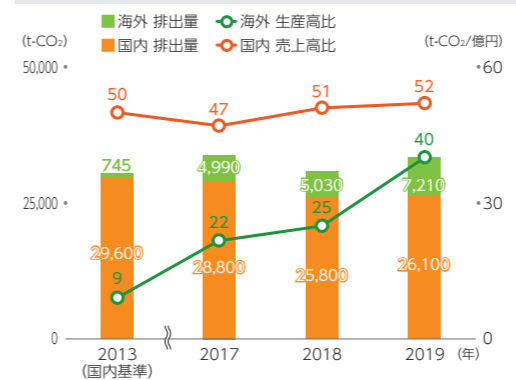
※対象：国内3製造所 (井関松山製造所、井関熊本製造所、井関新潟製造所)  
 ※商品物流CO<sub>2</sub>排出量はエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量です。  
 ※海外製造拠点における削減目標は、事業所によって基準年が異なるため記載していません。

## 低炭素社会の実現

### ○ CO<sub>2</sub>排出量の削減

国内	排出量は削減目標を達成できました。売上高比では、暖房設備やコンプレッサーの使用時間増により未達となりました。目標達成に向け現場の改善活動を継続します。
海外	東風井関農業機械有限公司 (襄陽工場) の新塗装ライン稼働により、CO <sub>2</sub> 排出量は増加しました。

エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量/売上(生産) 高比



注) 国内は過去からの削減推移を評価するために電力排出係数 0.378kg-CO<sub>2</sub>/kwhで算出しています。

### ○ 商品物流のCO<sub>2</sub>排出量の削減

鉄道便・船舶便の減少や需要拡大で利用が難しくなり、トラック輸送が増えたことにより、モーダルシフト率の低下と貨物輸送量当たりのCO<sub>2</sub>排出量削減目標が未達になりました。さらに積載効率向上を推進し、CO<sub>2</sub>排出量の削減とモーダルシフト率向上に努めます。

年度	2013	2017	2018	2019	
				目標	実績
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	4,340	3,200	3,160	-	3,240
貨物輸送量当たり (t-CO <sub>2</sub> /万トンキロ)	1.36	1.27	1.27	1.24	1.34
モーダルシフト率	47%	53%	54%	-	51%

モーダルシフト率 = (鉄道トンキロ + 船舶トンキロ) ÷ 総トンキロ  
 対象：国内拠点間、輸送商品の国内港までの輸送

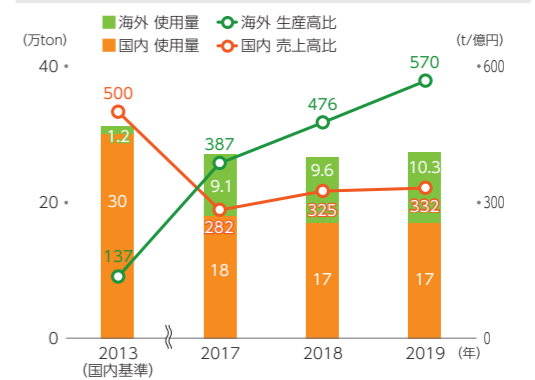
※対象：国内 (井関松山製造所、井関熊本製造所、井関新潟製造所)、海外 (東風井関農業機械有限公司 (襄陽工場、常州工場)、PT.ISEKIインドネシア)、海外製造拠点の2013年度の実績は、襄陽、常州の2工場が対象  
 ※国内廃棄物最終処分量においては、基準年である2013年が一時的に異常値となった期間があったため、対象期間を除く前後の平均値を調整値として使用しています。

## 循環型社会の形成

### ○ 水使用量の削減

国内	使用量は削減目標を達成しましたが、売上高比では目標未達となりました。塗装ラインでの水使用量の調査など、さらに現場の削減活動を推進します。
海外	東風井関農業機械有限公司 (襄陽工場) の新塗装ライン稼働により水使用量が微増となり、襄陽工場、常州工場での生産高減少により生産高比が悪化しました。

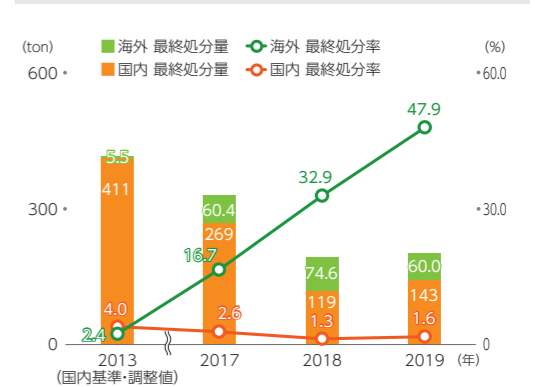
水使用量/売上(生産)高比



### ○ 廃棄物最終処分量の削減

国内	リサイクル廃棄物の対象種類が増えたことにより、ここ数年の最終処分量が減少しています。
海外	最終処分量の削減ができました。2019年度は常州工場でリサイクル処理している紙と廃鉄類が定量に達せず保管していたため廃棄物総量にカウントされず最終処分量が悪化する結果となっています。

廃棄物最終処分量/最終処分量



注) 最終処分量率 = 廃棄物最終処分量 / 廃棄物総量